

SEA TO SUMMIT for Children in 若狭(福井)～縄文人が愛した三方五湖の魅力に迫れ～

事業報告書

令和6年9月28日(土)～令和6年9月29日(日) 1泊2日

I 事業趣旨

「SEA TO SUMMIT」は、人力のみで海から里、そして山頂へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえない自然について考えようという環境スポーツイベントである。また、「SEA TO SUMMIT for Children」では、小中学生を対象に、水の循環をたどる3つのアクティビティを実施する中で、“人と自然との共生”をテーマとした環境学習を実施する。※「SEA TO SUMMIT」はモンベルの登録商標。

当施設が実施する「SEA TO SUMMIT for Children in 若狭」は、若狭地域にある川、湖、海、山の自然環境を移動しながら、そこでの自然体験活動を通して、自然の雄大さや素晴らしさを感じるとともに、環境資源から育まれた伝統・文化(昔・今)を再確認し、環境保全意識の醸成を図ることを目的としている。また、サイクリングや登山等のアクティビティを通して、現代の社会を生き抜いていく力を醸成することを目的としている。

- ◆ 開催場所
福井県立三方青年の家(福井県三方上中郡若狭町鳥浜 122-27-1)およびその周辺(三方五湖、梅丈岳)
- ◆ 協力機関
株式会社モンベル、福井県立三方青年の家、株式会社レインボーライン
- ◆ 講師
ワークショップ「三方五湖について」
三方五湖子どもラムサールクラブ 代表 小嶋 明男 氏
三方五湖子どもラムサールクラブ 副代表 武田 真澄美 氏

II 日程

1日目 9月28日(土) 会場:三方青年の家	2日目 9月29日(日)
9:30 受付	6:00 起床
10:00 はじまりのつどい	6:30 朝のつどい
10:45 仲間づくり	6:45 朝食
11:45 昼食(弁当)	8:50 ②里のステージ:サイクリング(全長12km)
12:30 ①川・湖のステージ:ポート漕ぎ体験	10:55 ③山のステージ:梅丈岳登山(標高395m)
14:00 三方湖周辺の散策 里山里海研究所の野鳥観察小屋にて	13:00 昼食@山頂(レインボーライン公園)
16:00 自転車の調整	13:30 ふりかえりワークショップ「若狭について」
17:30 夕食(職員の炊き出し)	14:30 おわりのつどい
19:00 ワークショップ「三方五湖について」	15:00 解散
20:15 入浴、班ミーティング	
21:00 就寝	

Ⅲ 各プログラムの成果&課題、コツ&ツボ

i. 川・湖のステージ:ポート漕ぎ体験

このプログラムは福井県立三方青年の家(以下、青年の家)が提供しているプログラムである。導入は主催者で行ったが、活動の指導は青年の家職員が行った。導入では、後述する「ミッション」と「カード」の説明を行った。

当日は、北風が強く(11時の測定 5.0m/s前後)、夕方になるにつれ強まる予報が出ていたため、活動の開始時間を早め 12:30 より開始した。また、活動時間も短縮して 14:00 に終了した。さらに、実施基準ぎりぎりの天候でもあり、予定していたボートの艇数を1艇(スタッフが乗艇予定)減らし、より安全面を確保しながら実施した。

活動中は、ボートの近くを鯉が跳ねたり、葦(ヨシ)の近くに棲む野鳥(カルガモやサギ)も観察することができた。また、ミッションの1つであるビンゴカード(後述参照)を湖の上で班のメンバーと相談しながら行う姿も見られ、自然環境に目を向ける様子があった。



ii. 環境に関する講義・ワークショップ:三方五湖について

今回、地元の三方五湖子どもラムサールクラブから小嶋氏と武田氏を招聘し、「三方五湖について」のテーマで講義、ワークショップを行った。前半は、三方五湖の生き物(野鳥やシジミなど)の生態系と地形に関する講義があり、野鳥の特徴を体を使って模倣したり、クイズ形式で話をしたりと、参加者の興味関心を引き付けながら楽しく学ぶことができた。後半は、雨水が山からどのように流れるかを三方五湖周辺の地図をもとに「谷筋を見つける」ワークショップを行った。各班を2グループにわけ、それぞれ相談しながら活動する様子が見られた。まとめでは、山から海は川や湖を通して繋がっていることや、山の栄養が川、湖、海に行き渡っていることを改めて確認し、翌日以降の活動で活かすこととした。

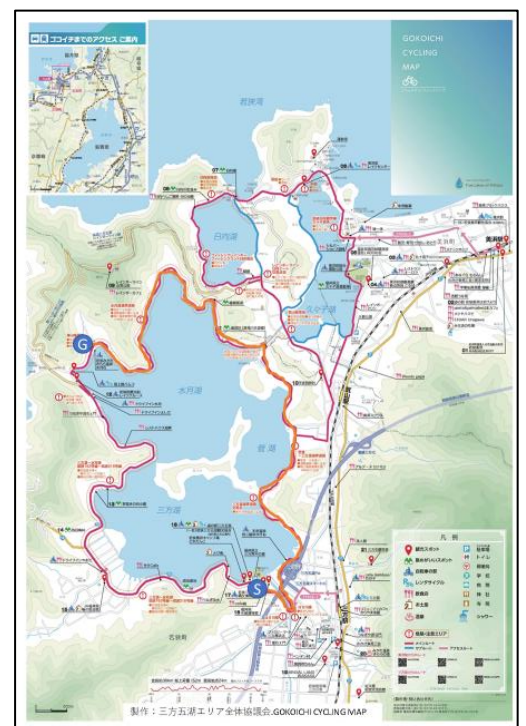


iii. 里のステージ:サイクリング

安全に走行できるよう予め、持参およびレンタルした自転車について各自サドルの調整やブレーキの効き、タイヤの空気圧等を確認した。

今回のサイクリングコースは概ね若狭町が推奨するサイクリングコースであるため、安全に活動することができた。特に、湖畔を走るのも、高低差も少なく、体力差が出にくいコースとなっており、コース中は梅農園があったり、漁の小屋があったり、若狭の地域性を垣間見ることができた。

サイクリング中は、ミッションの1つである謎解きカード(後述参照)を班で考えながら、途中にある地域の案内看板等をヒントに解く様子が見られた。

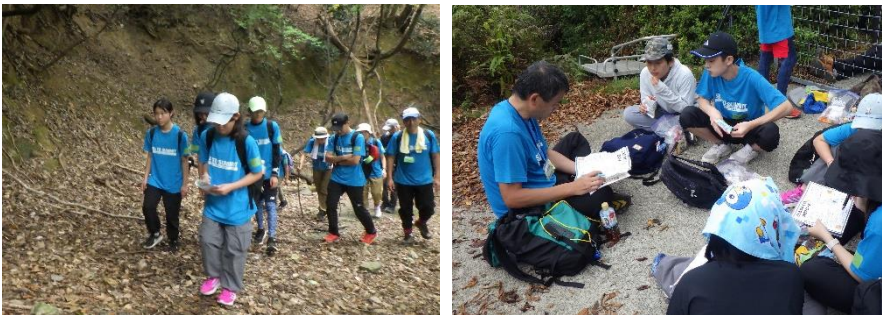




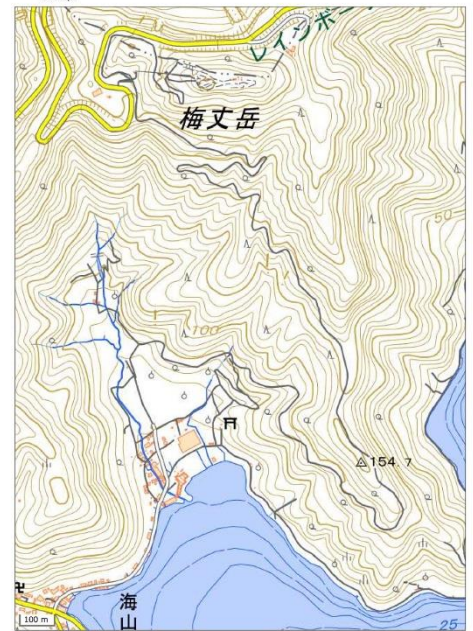
iv. 山のステージ:梅丈岳登山

サイクリングのゴール地点は梅丈岳登山口がある若狭町の海山集落である。梅丈岳の標高は395mであり、舗装された道が多いため、活動負荷はそれほど高くなかった。登山はサルヤシカ、熊等との遭遇を考え、班活動とはせず、全員まとまって行動することとした。また、職員とカウンセラー（班付きボランティアのこ）は追加補給や応急手当用として真水（500ml）を余分に持参した。

活動中は、ミッションの1つであるビンゴカード（後述参照）をもとに班ごとに考えながら進む様子が見られ、植物等を見つけるたびに班で集まって話し合う姿が見られた。



地理院地図
GSI Maps



v. 活動中のミッション（自然物ビンゴ、謎解きクロスワード）

●自然物ビンゴ「縄文人が食べた!？生き物ビンゴ」

各班に右のカードを1部ずつ渡した。3人以上が発見し、カウンセラーが確認すると1マスを得ることができるルールを設定し、サイクリング以外の活動（主にボート活動と登山）で山頂に着くまでにより多くのビンゴを目指すように説明した。

マスの設定については縄文人が食べたかどうかは不明だが、三方五湖付近で見つけられそうな生き物や、中心のマスにはアイスブレイクで行ったゲームのクリア、班のメンバーで想像して探すようなマスなどの工夫をした。

活動の様子をみても、このビンゴカードを軸に話し合いをしたり、自然観察をしたりするような姿がみられ、山頂ゴール時には、どの班もほぼすべてのマスのものを見つけることができていた。



●謎解きクロスワード「三方五湖なぞときクロスワード」

各班に右のカード(答えなしのもの)を1部ずつ渡した。1日目の早い段階でこのカードを渡し、山頂に着くまでに謎を解くように説明した。

カードの問題は、サイクリングロードに設置されている地元の若狭町が作成した地域の案内看板の情報をもとに作成した。また、夜の講義の中にもヒントがあるような問題もいくつか作成した。

ビンゴカードを使用することで班のメンバーと相談する姿が様々な場面で見られ、問題を解きながら、三方五湖のことを理解していく姿がみられた。



IV 事業全体の成果&課題、コソ&ツボ

◆ 参加者

参加者数10名

今回、参加者の定員が24名のところ10名と応募が少なかった。広報は、福井県嶺南地域の小中学校の対象学年全員にチラシを配布した。さらに今回は、アウトドアメーカーのメンバーとの連携事業ということもあり、活動の内容もアウトドアスポーツであることを鑑みて、滋賀県、京都府等の近隣府県のアウトドアショップにも配架するよう個別で依頼した。

内訳		男	女
小学生	5年生	1	1
	6年生	2	1
中学生	1年生	1	1
	2年生	0	0
	3年生	1	2

(人)

各参加者が申込時に回答している「この事業を知った媒体」では、以下の表のような結果となった。

自然の家 HP	5
学校配布チラシ	4
知人からの紹介	1

(件)

事業満足度

参加者10名のうち、「満足」「やや満足」と回答した参加者数は10名全員だった。

満足	5
やや満足	5

(件)

各プログラムについて

どのプログラムにおいても、「満足」、「やや満足」の回答があった。各プログラムの参加者のコメントは以下のとおりである(一部抜粋)。

●ボート活動

楽しかった。あまりしたことがなかったので良い経験になった。
力が必要で少し経ったら手が痛く諦めかけたけど、すごく楽しく最後まで頑張った。
活動が始まってから、初めて同じ班の子たちと協力する場で最初は全然息が合わなかったけど協力できてうれしかったし、たくさんの自然に触れることができてよかった。

●ワークショップ「三方五湖について」

三方五湖にいる鳥や生き物、環境について詳しく理解することができた。
様々な鳥がいて様々な取り組みがあるのだと思った。
鳥は苦手な方だったが、いろんな鳥の可愛いところが知れて良かったし、優しい先生方の面白い話が聞けて良い知識になった。楽しかった。

(地図で) 谷を探すのが楽しかった。

●サイクリング

心地よかった。ほどよい急な坂道と湖のそばを走ることが良いバランスだった。

坂道を下るときに風が吹いてすごく気持ち良かった。

普段使わないようなスポーツ用の自転車を使って漕ぎきることができた。たくさんの自然に触れたのですごく楽しかった。

●登山

登った後に、山頂から景色を見たときに下からここまで上がってきたんだと達成感が湧いた。

ちょうどよい人数だった。道が整備されていて歩きやすかった。

1日目では関われなかった違う班の子ともたくさん話ながら登山できて楽しかった。歩いているだけでたくさんの自然が広がっていて新鮮な気持ちになれた。

「環境保全意識」得点の変化

事業目的の1つである「環境保全意識の醸成」に対して、子どもたちにどれだけの成果(効果)があったのかを知るために、以下の項目において参加者10名に対して事業の実施前後でアンケート調査を行い、各得点の平均点をt検定を用いて調査した。

●「環境保全意識」:生物や植物を大切に思う気持ち(調査項目は「Soga et al.(2016)」を参考に作成)。

●「自然へのつながり」:自然に対する反応尺度の「一体感」因子を抜粋(調査項目は「芝田(2016)」を参考に作成)

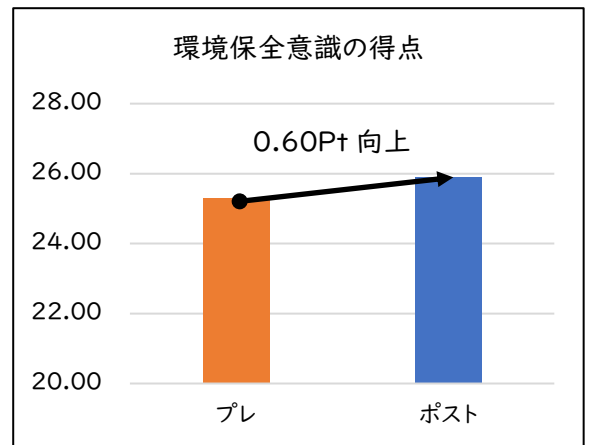
調査の結果、事業実施前後を比較すると、「環境保全意識」の平均得点は0.60得点向上し(統計的に意味のある得点の向上ではない。表1、グラフ1参照)、「自然へのつながり」の平均得点は1.10得点向上した(統計的に意味のある得点の向上ではない。表2、グラフ2参照)。以上より、本事業は平均点の向上がみられることから、当目的に対して、事業前後で一定の成果があったのではないかと考える。

(表1)

(人数=10)

保全意識得点	平均値	前後の差	t値	p値	効果量
プレ	25.30	0.60	-0.65	0.53	0.09
ポスト	25.90				

(グラフ1)

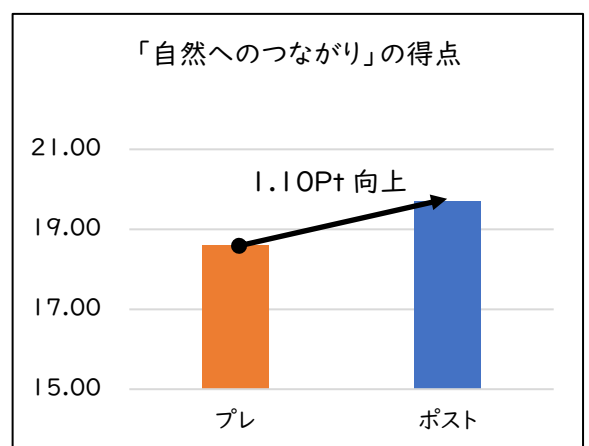


(表2)

(人数=10)

自然つながり得点	平均値	前後の差	t値	p値	効果量
プレ	18.60	1.10	-1.34	0.21	0.18
ポスト	19.70				

(グラフ2)



◆ 担当スタッフ（職員・カウンセラー）の所感

全体を通して

- ・ 今回自然の家をフィールドとせず、三方青年の家を拠点としたのは、青年の家近辺にある環境資源（三方五湖、はす川、山など）が当事業の趣旨にあうと考えたためであったが、前述のとおり活動負荷、スケジュール等を鑑み、よかったと考える。
- ・ 他の事業と比べて、応募者が少なかったのは、参加費の高さが関係していたか検討する必要がある。
- ・ 1日目のボート活動は、風が強く、安全を確保するため、三方青年の家の職員と協議し、予定よりも1時間日程早めて開始し、活動時間を1時間短縮して実施した。そのことにより、午後の活動時間に余裕ができたため、近くに隣接する県立の施設（福井県立里山里湖海研究所）で、野鳥の観察等を行い、三方五湖について学びを深めることができた。
- ・ 今回、2つのミッションカードを使いながら3つの活動を通して、参加者は自然物や動物、景色の視点で三方五湖の魅力を感じていたのではないかと思える。また、参加者の年齢に開きがあったが、上記ミッションを軸に、自然と班のメンバーが話し合いまとまる様子も見られていた。
- ・ 今回、宿泊した三方青年の家では、食堂での食事の提供はしていないことを鑑み、食事は弁当や職員からの炊き出しにして活動時間を多くとれるようにした。

事業スケジュールについて

- ・ 3つの活動を1泊2日で行うには、タイトなスケジュールを計画していたが、各活動の負荷もちょうどよく、スケジュールは妥当であった。また、開催時期も活動しやすい気温と天候で体調不良者も出なかった。

参加対象者について

- ・ 小学5年生にとって詰めたスケジュールと負荷がやや高めな活動かと思っていたが、妥当であった。中学3年生は班のメンバーをまとめながら活動を行っていたため、物足りなさはなかった。

安全管理について

- ・ サイクリングの前に、実際に自転車の習熟度を確認し、心配な人には個別で助言等を行うことで、より活動中の安全を確保する必要があった。
- ・ 施設外での活動の際には、緊急車両等にAEDを常備しておく。

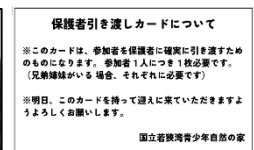
その他

- ・ 参加者に配布する飲料だけでなく、大きな荷物、自転車・ヘルメットなどそれぞれにネームタグを作成しておくことで、衛生管理や事業運営の面でも効率的に進めることができた。さらに、今回解散する場所は観光地のため確実に保護者へ参加者を引き渡せるように、参加者の「引き渡しカード」を受付時に保護者に渡し、カードを持っている方に参加者を引き渡すようにした。

（引き渡しカード）



（表）



（裏）





【事業担当】
 国立若狭湾青少年自然の家 小林、池田、猪原
 住所：〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜
 TEL:0770-54-3100 FAX:0770-54-3023
 Mail:wakasawan-ji@niye.go.jp